

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	さがのこうとうがっこう				②所在都道府県	京都府
26～30	①学校名	嵯峨野高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	1年 330人	2年 336人
	126	128	125		379	3年 334人	
京都こすもす科 人文社会・国際 文化系統							
普通科	120	124	126		370		
⑥研究開発構想名	地域連携・海外コラボ型「京都グローバルスタディーズ」によるリーダー育成						
⑦研究開発の概要	グローバルリーダーの育成のために、地域・海外連携型京都グローバルスタディーズ（KGS）ⅠⅡⅢにおいて、大学や企業等と連携し、生徒の「課題発見・解決能力」「探究する力」「表現する力」「地球規模の視野で考える力」「英語・異文化コミュニケーション能力」「リーダーの資質」を育成することを目標とする。						
⑧研究開発の内容等	<p>(1) 目的・目標</p> <p>持続可能な社会の形成のため、政治・経済・文化・社会分野等において、課題発見・解決能力を育成し、政策提言をはじめとした未来デザイン力や行動力を持ち、個人、日本人としてのアイデンティティを確立し、国際社会で尊敬される人格と高度な知識・洞察力を備えたグローバルリーダー育成のための「京都グローバルスタディーズⅠⅡⅢ」の教育課程等を研究開発することとした。</p> <p>1年次KGSⅠでは、探究の基礎と英語・異文化コミュニケーション能力の育成、2年次KGSⅡでは、現行のアカデミックラボ（1年次1単位から2年2単位に変更）の充実・発展を図り、地元の教育リソース（大学・企業等）を活用して探究する力を伸ばし、また、海外の高校生とのワークショップを充実させることで地球規模的に考える力をつけ、さらには、活動により「課題発見・解決能力」「表現する力」等を育成する。3年次KGSⅢでは本校が主催する予定の「京都グローバルフェスタ」での発表や質疑応答を英語で行うことで、課題研究をより深め、グローバルリーダーの資質を育成したいと考えている。</p> <p>また、海外帰国子女特別入試の導入について検討をし、異なる価値観を持つ生徒同士が互いに切磋琢磨する環境の整備を図っていきたいと考える。</p>						
	⑧-1全体	<p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>新しいタイプの専門学科「京都こすもす科」を設置（平成8年度）し、平成14～16年度の3年間文部科学省からスーパーランゲージハイスクール（SELHi）の指定による先進的で高いレベルの英語教育、国際理解教育を進め、また、探究活動を行う「アカデミックラボ」の取組を実施してきた。しかし、SSHにより3年間継続して行う「スーパーサイエンスラボ」と比較して大学や研究所との連携や協同研究など、その深化という点で課題がある。加えて、国際理解教育の学校全体への拡がりも課題である。</p> <p>京都グローバルスタディーズⅠⅡⅢの、3年間で、段階的に、大学や企業等との連携のもと、課題学習やその成果物の発表を日本語や英語で行う機会を設定することで、課題研究の深化、英語で議論できるコミュニケーション力を育成することができると考える。また、生徒に各種の国際的な課題に関する大会やコンテストへの積極的参加を促すことにより、チャレンジする力を持ったたくましいグローバル人材を育成できると考える。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>成果発表と研究手法の普及については、KGSⅡ「アカデミックラボ」の成果発表会を公開し、また、3年次6月に本校主催で実施する「京都グローバルフェスタ」は、府内の高校、全国のSGH校や連携大学、海外のパートナー校の生徒・教員を対象に行う。また、同様に3年次10月実施予定の「嵯峨野高校SGHシンポジウム」では、府内の高校、全国のSGH校、連携大学や海外の高校の教職員を対象に実施し、指導方法や教材の公開や意見交換をし、普及に努めたいと考えている。</p>					

<p>⑧-2 課題研究</p>	<p>(1) 課題研究内容 地域連携・海外コラボ型「京都グローバルスタディーズ (KGS) I II III」において、「環境」と「地域」をテーマに国際的視点を加えて課題研究を実施する。 「グローバルな環境問題」を国際社会の利害やエネルギーの視点等から、「地域環境の問題」を都市環境や防災及び景観や生態系等から研究する。また、「生活環境の問題」を法律や経済などの観点から、「文化環境」の問題を比較文化的視点等から研究する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 平成 26 年度は、京都グローバルスタディーズ I を実施し、「グローバルインタラクション」では外国人講師や外国人留学生の活用により英語での課題発表やディスカッションするための基礎づくりをする。 「社会と情報」では、課題研究のための基礎力を養い、課題について主体的に考え、発表する力をつける。その際、ICT 活用力を身につけ、クラス (10 月) や学年全体 (2 月) で課題発表を行い、教員・生徒・外国人講師・TA 等で評価を実施する。 海外のパートナー校とのコラボレーションとして行うミニ国際ワークショップ (本校・海外) では、課題研究の内容を英語で発表することにチャレンジをする。1 年次に課題発見・解決能力と英語・異文化コミュニケーション能力の基礎を身につけることで、2 年次の KGS II での課題学習にスムーズに取り組めるようにする。さらに、ハーバード大学の学生とのワークショップ等を行い、課題研究を深め、地球規模の視野を得る。 平成 28 年度の「課題錬成 A」「課題錬成 B」により英語でのポスターセッション・口頭発表に向けての準備を行い、6 月に本校が主催する「京都グローバルフェスタ」で発表をし、その質疑応答を通して、課題研究を深める。さらに、リーダーの育成のため、当日の運営についても生徒が主体的に行うよう促す。府立高校の教員、全国の SGH 校の教員、海外パートナー校・大学・企業の関係者から評価を受けることを予定している。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 「グローバルインタラクション」「課題錬成 A」「課題錬成 B」 「ロジカルサイエンス」「アカデミックラボ」</p>
<p>⑧-3 上記以外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>(2) グローバル・リーダー育成に関する環境整備, 教育課程課外の実組内容・実施方法 海外帰国子女特別入試の導入を検討し、海外生活を経験した多様な学習歴をもった生徒の入学を進めていく。 表千家による茶道の指導や、古典芸能鑑賞を通して、日本の伝統文化にふれ、体験する取組を通して、自らのアイデンティティ確立を目指す。</p> <p>(3) 幹事校としての取組 (該当する場合のみ記入)</p>
<p>⑨その他 特記事 項</p>	